

# 新潟県 公民館月報

昭和57年2月号

発行所 新潟県公民館連合会

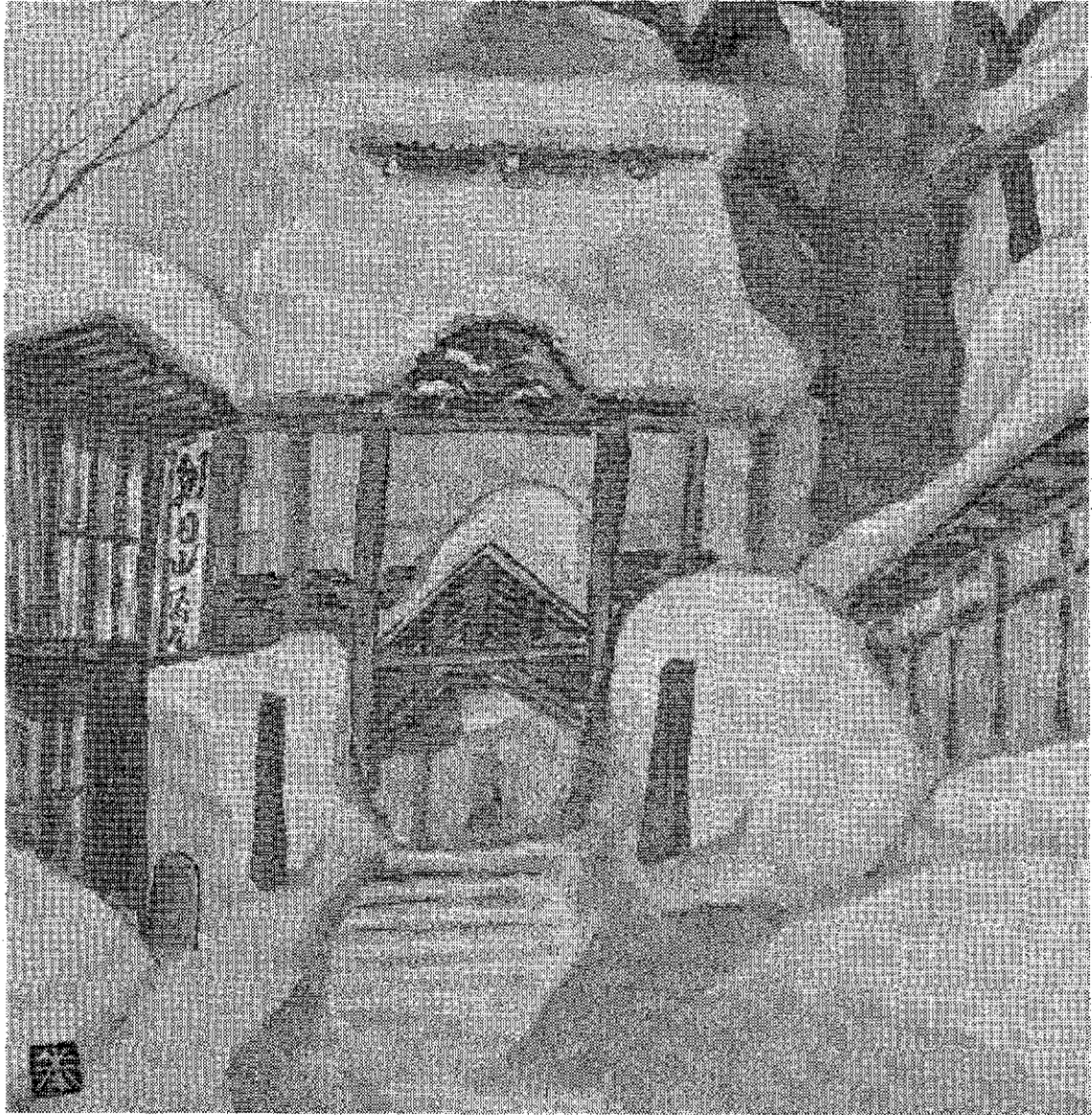
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】【振替新潟4049】

発行人 会長 石井耕一

編集人 事務局長 本田清

【定価1部 90円 年共・年販 1,080円】



## 毘沙門堂

天下の奇祭として日曆にも載っている大和町浦佐の毘沙門堂(別当普光寺)の裸押合は、この山門の奥にある堂で、毎年三月三日に行われる。時に三メートルを越す雪を踏み固め、数百人の若者が、数万人の参詣者の見守る中で下帯一本となり、不動様御前の水鉢に飛び込み、あるいは天井からのまき水を浴びても、体からもうもうの湯気を立たせて押す。

この壮観は取りまく大燦燦数百本の火に映えて、勇壮そのものとなる。

この行事は北越雪譜にも取材されている。遠く南北朝から武家政治の時代を経て今日まで受け継がれている。

この山門は日光東照宮の陽明門を模し、彫りも美しく釘は用いられていない。これは二代目で一代目は堂の正面にある太子堂である。

絵・文

大和町文化財審議委員

元同町公民館長

加藤久泰

# 公民館建築費国庫補助内示



行革が  
らみで  
圧縮

抜本対策を文相に要請

小川文相に抜本対策を陳情する石井本会会長(全公連理事)(右)と  
犬飼長野県公連事務局長(左)

七月四日開かれた全国公民館  
振興大会の決議をうけて、公民館  
施設費補助百七億二千四百の絶対  
確保をめざす陳情運動が、さる十  
二月二十二日から三日間にわたり  
実施された。  
今回の運動態勢は、いわゆる行  
革がらみの厳しい情勢をまよえ、  
参加者は一県二名という少教精鋭  
主義で実施された。  
一公民館当りの補助額三千二百  
万円、要求総額数三百二十五億  
は、前年度実績額を下回る要求額  
であり、この額を下回る内示で  
は、建設計画を中断しなければな  
らない市町村も出ることを予想さ  
れ、要求総額獲得にむけて不退転  
の決意でのぞむ旨の全公連会長、  
公振連会長のあいさつで、陳情運  
動本部はうき出した。

ただちに都道府県の運動部長十  
余名は、それぞれめざす代議士  
与党文教部会、同文教制度調査会  
委員、文部省、大蔵省などの主要  
陳情先へ向けてくり出した。  
明けて十二月二十三日、大蔵省  
第一次内示は総額百五億五千一  
百五十万円を出た。これは、一館  
平均三千五百五十万円(前年度より一  
億五十万円の減)、館数は三百四十  
五館(要求とおお)というもので  
要求総額に対し一億六千七百五十  
万円の減という数字であった。た  
だに全額確保要求にむけて再び  
行動しようとする。

この段階で、本会長石井耕一  
氏は、全公連理事の立場から小川  
新文相に直接激励を兼ね、次年度  
以降の方針をめぐり、抜本的解決  
策について陳情をめぐらさる  
た。  
例年のとおり与党文教部会の有  
力メンバー代議士へも引き続き陳  
情をめぐらさる努力が重なら  
れた。

しかし、施設関係予算をめぐる  
情勢は、文部省のみならず、全般  
にまことシシシのものがあり、  
今回は多くを望めない判断した  
運動本部は、翌二十四日朝、参加  
者の努力をこめて一つ解散を決意す  
るにいたった。

なお、この結果について、文部  
省当局では「一部の建築館数や  
他の関連施設予算等を動かし、適  
切な手を打つていかなければなら  
ない努力をする」とうたっている。  
前年度を下回る補助額とはならな  
いよう努力する。」とうたってい  
る。別掲の昭和五十七年度文部省  
社会教育(公民館)関係予算内示  
額一覽を付した。

この結果について、文部省当局では「一部の建築館数や他の関連施設予算等を動かし、適切な手を打つていかなければならぬよう努力する。」とうたっている。前年度を下回る補助額とはならぬよう努力する。」とうたっている。別掲の昭和五十七年度文部省社会教育(公民館)関係予算内示額一覽を付した。



(運動本部で結果を説明する文部省社会教育局の幹部)



(元文相海部俊樹氏にも陳情)

# 昭和57年度文部省社会教育（公民館）関係予算内示額一覧

(単位 千円)

事項	前年度予算額	最終内示額	
社会教育主事給与費	1,894,200	2,028,600	④4,510千円→④4,830千円
社会教育指導員設置費	691,200	691,200	
社会教育指導者研修費	197,488	197,488	
生涯教育推進事業費	62,442	120,814	生涯教育推進事業（学習情報提供事業と統合） 16県×④12,500千円×1/2=100,000千円
集団学習奨励費	430,059	409,013	
地域活動奨励費	348,192	355,680	青少年地域活動830か所→770か所 青少年健全育成PTA活動560か所→510か所
社会教育施設活動促進費	227,448	216,216	公民館活動209か所→198か所、図書館活動54か所→52か所 博物館活動45か所→42か所
家庭教育充実事業費補助	966,686	952,788	47県 家庭教育総合セミナー→57県市 家庭教育学級5200→5100
教育方法改善設備費	76,924	69,527	
社会教育施設	16,965,000	15,267,500	
公民館	12,493,000	10,552,500	335館、③ 31,500千円
県立総合社会教育施設	120,000	122,000	1館、③ 122,000千円
公立図書館	1,980,000	2,184,000	39館、③ 56,000千円
公立博物館	715,000	728,000	13館、③ 56,000千円
公立青年の家	220,000	224,000	4か所、③ 56,000千円
公立少年自然の家	1,192,000	1,208,000	8か所、③ 151,000千円
公立視聴覚センター	165,000	168,000	3館、③ 56,000千円
公立婦人教育会館	80,000	81,000	1館、④ 81,000千円

## これからの地域と人

石井新一メモ

教育書のロングセラーに、  
藤井和雄校長若林繁太氏の  
「教育は死なず」がある。全  
国から集まってくる非行少年  
を、真人間に育てた養育の記  
録である。

記録的なベストセラーに、  
黒柳徹子さんの「窓ぎわのト  
ットちゃん」がある。手のつ  
けられなかった女の子が、電  
車の窓ぎわの学校へ移ってか  
ら、生き生きとして育ってゆ  
く。子どもと自然とを愛する  
トット先生の小林校長と、純  
真な子どもたちの生活が楽し  
く書かれていて、心温まる読  
物である。

若林校長は、あくまでも生  
徒を信じ、それを実践した。  
小林校長は、「君はいい子な  
んだ」と言いつつ続けた。徹底  
した人格尊重である。

これは、共に偉大な教育者  
による学校教育の記録であ  
る。さらに広範囲な地域の、  
雑多な人を対象とする社会教  
育では、学校のようにはいか  
ない。しかし人の性は善であ  
ることを信じ、それを引き出  
すが迫るはずである。

長野県飯田中学校のリン  
ゴ並みの話がある。報  
道機関のキャンペーンによる  
協力もあって、人通り自由な  
並木のリンゴを取る者は全く  
ない。少年の心を傷つけては  
ならないという人々の良識  
が、地域に徹底したのである。

公共便所のちんぽ書き、駅  
床のたばこの吸い殻、特に  
東部の国電の駅はひどい。空  
き缶の散乱防止に条例が必要  
だとおぼやかしな。

高学歴社会だとうが、時  
が流れ、人が変わることで、  
国民の知的水準は高くなる。  
体格も同様である。最も重要  
なのは、智育や体育でなく  
徳育である。

見直しの時代だとうが、  
社会教育を見直し方が特に必  
要であろう。これからの地域  
社会と、そこに住む人間はい  
かにあるべきかを見定める必  
要がある。

理想社会の建設について、  
県社会教育課発行の社教によ  
り新年号に、「私の左腕が鳥  
独立国語」と題して書いてい  
る。ご参照いただきたい。

## とその解決方策(4) 第3回全公研集会分科会の記録から

第2の問題として、社会教育施設の問題がある。農村地区には、新農業構造改善事業、農村モデル事業等で農業者集会所、多目的農業者集会所、農村環境改善センターに依る諸々の建設、通産関係では工場再配置促進事業による体育館や集会所、その他厚生、労働行政の施設等は補助額も2分の1以上が多いのに文部省の補助ははるかに低額である。施設補助面での文部行政施策の前進を社会教育関係者の我々は大いに期待している。

第3の問題は、施設の利用問題である。文部省補助事業以外の施設が整えば、そこでの利用が盛んになり、結局公民館主事の活動が強いられ職員の増員もできず、日曜・祭日の勤務も多く代休もとれなくなる。住民の自主的管理による施設利用と社会教育への施設化が望まれる。

第4に取り上げたいのは、他部局と連携の上で社会教育活動を進めたいということである。特に財源不足や専任職員の不足を考えた場合事業の協同化が必要である。

最後に公民館主事の多様な力量が今後望まれるものと思う。住民の要求が非常に多様化しつつある現在、どんな要求にも応じ得るような専門的知識を身につけた職員(公民館主事)が必要な時代になってきたと思う。

### 3. 討議内容

第1の柱一人の問題について。

公民館職員にからむ問題として、勤務の不規則性、職員の不足の問題、若い職員が敬遠する問題、社会教育主事と公民館主事の兼務の問題等が主な討議内容である。

特に若い職員が敬遠する問題について、役場職員の意識調査の結果では、やりがいのあることはわかるが休日出勤(85%)に敬遠原因がある。その対策として、日曜日を休館にする。夜間勤務の場合は午後出勤で夕食を出す。代休にはアルバイトを入れる、などの勤務に工夫をこらすことの必要性が問われた。

また、勤務が不規則で過重労働を強いられる上に、見返りの報酬がない。将来の希望とか、研修制度が確立されていないこと。私生活が犠牲になる宿命論については、為政者に十分理解させることが大切である。ということから、為政者に対する立ち向かい方が論議された。そのためには、教育長と館長が常に話し合うべきだとか、社会教育に情熱をもやし、自治能力をもった町民を育て為政者に働きかけてもらう。いや主事の資質が為政者を変えるのだと論論が展開された。

第2の柱一予算の面について。

#### ○補助について

公民館の建設費の増額を望むが、各省庁の予算に較べ文部省の補助は低額である。

補助事業の補助率が現在のような形では困る。新規事業に補助を出し、従来からの事業には、補助を少なくしている。こんな補助の方法では単独事業ができない。

一方では予算を削り、一方では新規事業を要求していることは、現状にあわない。今後が心配である。これらの問題は上部に伝わっていないではないだろうか。

#### ○市町村の予算獲得や運用について。

予算要求前に館長・主事の要求を出し合い、これを受けて社会教育課の代表で予算要求すると効果的且つ具体的によい。

事業推進の場合、行事によっては各課の協力で1つの事業を組む工夫も重要である。

年間を通しての事業、○○教室などは、最初の1年間は補助を出し、2年目からはクラブ化して補助金を出さないこともできる。発展の方向でもある。

### 4. 助言者のまとめ

○社会教育主事は、資格の要件があり行政上のポストである。公民館主事は資格の要件はなく、職場内の主事で、事業活動面の主事である。将来はあるべき姿、あるべき形に機能されるであろう。過渡期として社会教育主事は社会教育の施設に配置されていることが多い。

○社会教育活動の実績が次の予算要求につながることは明白である。予算の問題は文部省の方に要求したい。

経済成長の頃から公民館活動に変化がみられた。また、技術革新で企業教育が盛んになり近代化が求められてきた。今からの社会教育は、社会教育法の改善を中心に学校教育と調和をとるようすべきであろう。

今後の課題は、権利としての社会教育をどのようにしていくかということである。

○市町村や国の財政の中でどのように手当を改善するか。

○社会教育の近代化は評価にある。①計画②実践③反省・評価のサイクルによる前進を計るべきだ。

○社会教育の概念規定があいまいであることについて、今後は具体的方法論をもって明確にすることが必要である。そのため、学習の目的、内容、方法の研究が急務である。

地域の特色を生かし、生涯教育の意味を人間として考え出すことが社会教育、公民館活動のねらいでもある。要は住民の幸せづくりである。

○公民館利用者が1部の人たちに片寄るということは問題である。

以前は、青年団、婦人会を始めその団体を対象にした社会教育がなされてきた。いわゆる団体依存型の社会教育、公民館事業で間にあったが今日はそうではなくなった。

今日では、集団の学習が成立しにくいように生活構造が変化してきている。住民の個人々が、自分の生活を基盤に公民館を利用する方向にある。この変様に応じるよう公民館活動や施設は工夫されなければならない。

このようなことから、講師を招いて話を聞くようなことでは好ましいとはいえない。個人が、公民館を一巡することによって要求が満たされるようになっていく事が望ましいのである。

このように集団依存型からの脱皮が必要になってきた。

○社会教育の領域が、他の行政領域にとらわれているという問題が出された。

確かに、文部省以外の厚生、農林、水産行政などの補助は、社会教育施設だと考え、そこで働く人までも活用するという市広い考え方に立つ方が現実的である。

もともとそこには教育性が薄いので、うまく施設を使って、現実的な対応の仕方を考えるべきであろう。

住民にとって必要性の度合いが高い程いいのであって、公民館は今後その方向に働くべきである。

# 町村における公民館の管理・経営の問題点

参加対象 主事

司会者 愛媛県双海町公民館長 若松 進一

助言者 金沢大学教授 古野 有隣

公民館振興市町村長連盟副会長 足高 晋

## 基調発表

- 1. 千葉県四街道町公民館副館長 林 良紀
- 2. 岡山県寄島町公民館社会教育主事 鈴木 正矩
- 3. 熊本県宇土市教育委員会主事 本郷 裕幸

### 1. 司会のことば

こんな大きい大会の司会を仰せつかったが、何分不慣れで6時間にわたる司会がうまくできるかどうか疑問に思っている。幸い全国の同志の方々、3人の提案者、そして助言者等賢明な方々ばかりで心強く思っている次第である。本日の分科会は微力ながら一生懸命司会を勤めたいと意気込んでいるので、どうか最後までよろしく御協力をお願いしたい。

### 2. 基調発表

(発表1) 林 良紀

昨年館長に就任し1年半の経験で大きな発表は今回が初めてである。

#### イ. 四街道町の概要説明

56年度には桜井市と合併し、市制をしく予定である。

本町は36.04km<sup>2</sup>の町であるが、公民館は1館だけしかなく、社会教育施設の必要性を感じている。

#### ロ. 四街道町公民館の現況

50年6月竣工の本館と分館をもっている。職員は、副館長以下6名で54年度の利用状況は、開館日数304日、利用人数55,065人、図書館は週に3日開館、日・水・土曜の午後に貸出し、日・土はアルバイトに任せている。

本年度予算は1,636万円、主催事業10%で残りは貸館である。

#### ハ. 問題点とその解決方策

現在は1館だけであるが、60年度までに3館建設の予定である。館建設に当たり数回の会合をもち、住民の声も反映されている。

本館並立方式をどうするか、連絡にあたる館をどこにするか、運営審議会をどう設置するか等の問題がある。これらについては、町公民館運営審議会で条例・現則について検討する予定である。

団体、サークルとの関係では、町からの補助金がなく、施設・設備の提供も十分まかなえなくなっている。更に今後の個人利用を考えると施設・設備や職員不足も大きな問題となる。

最近問題となったことは、公民館長が常勤(9月)となったし、市制となるため課課制をとる中で3等級では決裁権がなくなる。また教育委員会と事務局との関係では、公民館が社会教育係、社会体育係を担当することになった。このことは間違いだたとされながら訂正されていない。公民館は、教育委員会の事務局の一部とされている。こんな問題に対して指導を願いたい。

(発表2) 鈴木 正矩

#### イ. 町の概要

東西4.5km、南北2.5km、人口8,200人、海岸線に面した町で平野部が僅少で人口密度は岡山県で第2位。

江戸時代より塩田が盛んで良港に恵まれ、漁業が盛んな町である。住民の気性が荒く、地場産業がなく、大工業地帯(倉敷市)への通勤者が多く連帯意識がうすい。

昭和52年頃から社会教育推進テーマを決め、現在青少年の健全育成、コミュニティ活動の促進、民主教育の推進、体力づくりの振興を活動の中心にしている。

#### ロ. 組織

従来は上意下達の方式であった。現在中央公民館と分館15を有し、分館長連絡会を設けている。52年度より年6回の会合をもち、ミニコミュニティ組織としての役割を果たしている。中央公民館は、コントロールタワーとして全町主催事業を担当し、分館は地域独自の課題解決と青少年育成に力を注いでいる。中央公民館と分館の関係、役割りが今後の課題でもある。

#### ハ. 職員

中央公民館は、館長1名、教育課長1名、社教主事2名、社教指導員1名、主事1名の計6名である。各地区館は嘱託管理人各1名で完全独立でない。この点問題の1つである。

#### ニ. 管理内容

開館は午前9時～午後5時まで、土曜日は正午まで。休館日は、日曜、祝日、年末年始で特に必要がある場合開館時間、休館日を変更する。

夜間、休館日は原則として使用団体の自主管理とするので、宿・日直に鍵を管理させる。また年4回、団体の管理者会を開いて使用の徹底を図る。

#### ホ. 問題点

- 公民館職員の専任化。
- 勤務実態の改善。(休日・夜間勤務)
- 職員の適正配置。

以上3点は、勤務条件から若い職員にきらわれている。もっとゆとりのあるきめ細かい対応と改善の必要がある。

○予算の獲得のみでなく、金のかからないアイデアを考える必要がある。

○補償制度の確立。(公民館保険等)

○社会教育法の見直し……公民館法(仮称)の法制化。

特に社会教育法27条1項を突破口に法改正を望みたい。そして魅力ある公民館になることを願望してやまない。

(発表3) 本郷 裕幸

#### イ. 市の現状

私の宇上市は、熊本県の一番南に位置し、山間部、平野部、海岸部からなるメロン・ネーブル農業生産や海苔の産地である。

昭和29年、4町村合併、人口33,500人位で、東西24km、南北8kmの新産業都市、文化的田園工業都市として発展しつつある。

#### ロ. 問題点

確かに教育予算は増額されてきているが、まだ不十分である。教育予算といえば学校予算中心で、社会教育予算は極めて僅少である。これは、社会教育に理解はあっても、積極的に取り組もうという為政者がいない。それは住民の目に反映せず、票との関係で仕方のないこともかもしれない。



# 新生公民館繁盛記

(15)

公民館は花ざかり、これまでにすでに三十二館の公民館が登場。好評をいただいています。これらもどしどしご紹介します。



## 中里村公民館

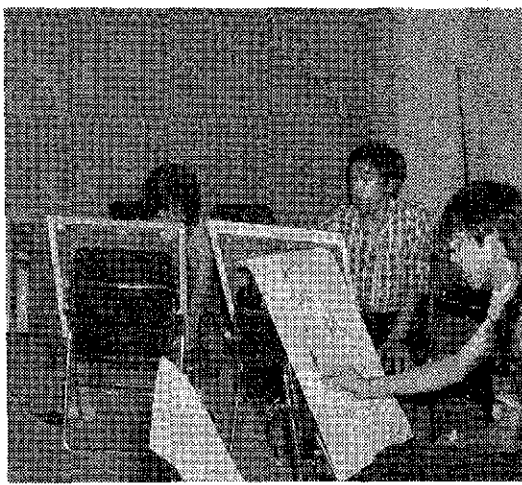
### 「みんなの公民館」で P R

#### 機能的な施設で幅の広い学習

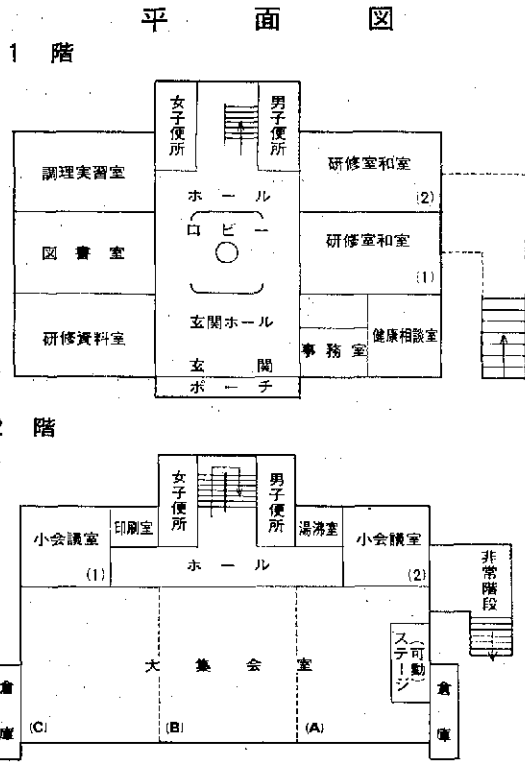
新しい公民館は、農山村地域をというのが目的でした。村の中心となりまぐ諸情勢の変化に対処し、部を走る国道一一七号線から東へ農山村の標準的な社会機能を確保約三百米ほど山の手に入った静かなるための産業教育、社会教育のな環境の中に建てられた建物は、実施、生活改善の推進、保健衛生、鉄筋コンクリート二階建て総面積生、社会福祉等地域開発等に關するは八六〇平方米です。

新しい公民館は、農山村地域をというのが目的でした。村の中心となりまぐ諸情勢の変化に対処し、部を走る国道一一七号線から東へ農山村の標準的な社会機能を確保約三百米ほど山の手に入った静かなるための産業教育、社会教育のな環境の中に建てられた建物は、実施、生活改善の推進、保健衛生、鉄筋コンクリート二階建て総面積生、社会福祉等地域開発等に關するは八六〇平方米です。

これら基本的な試みが今後の活動の中に具体的に生かされる事を楽しみに期待したいと思ひます。(中里村公民館)



(熱心に絵を描く青年たち)



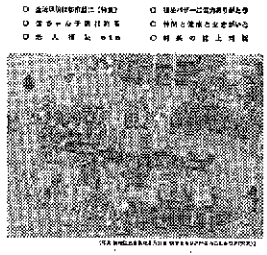
# 生きています

## 公民館報

### 館報新生

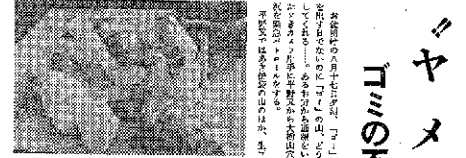
「新生」は雪深い北魚沼の入広瀬村公民館報である。毎号二十四ページという行政広報を兼ねた盛りたくさんの内容を誇り、ときにはカラー印刷も入ることもあるという特色ある館報として知られる。すでに通算三九〇号を超える県内最古参の館報のひとつ。

ページ数が多いため写真に依存している部分も多いが、そのあつかい方には、もうひと工夫ほしいと思わせられる反面過疎地を感じさせない活気も読みたい。



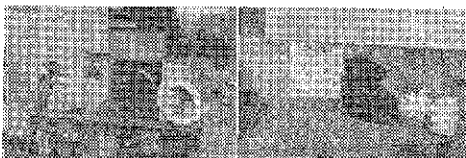
夏祭りの主役一仲間かつぎ

村民憲章 2. わたしたちは 古風い中華くし 意地りを守るの 奥い風習を習て おかひい村をつくりましよう。



平野文、長谷川カノル入人口三葉のステージ

項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
1. 地区別	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
2. 性別	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
3. 年齢	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
4. 職業	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
5. 収入	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...



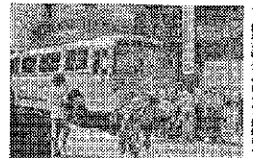
穴沢北村児童館のステージ（児童のたいはくは踊し）

「T」の排出「T」は...

穴沢北村児童館のステージにも登場

## 星空にひびくキャンプの歌声

### 田舎の香りをリュックいっぱい



信ちゃん子供村おわる  
両地区十二班(二二三〇人)入村

信ちゃん子供村開帳結果 (3/24日)

入居地区 (村民合計)

地区	開帳日	入居人数	入居人数	入居人数
1. 1/24	1/24	17	86	24
2. 1/25	1/25	19	78	21
3. 1/26	1/26	18	75	20
4. 1/27	1/27	15	72	21
5. 1/28	1/28	15	71	19
6. 1/29	1/29	15	70	18
計	15日間	114	452	123
平均	25日間	56	123	69

大石川地区 (暫定合計)

地区	開帳日	入居人数	入居人数	入居人数
1. 1/24	1/24	17	86	24
2. 1/25	1/25	19	78	21
3. 1/26	1/26	18	75	20
4. 1/27	1/27	15	72	21
5. 1/28	1/28	15	71	19
6. 1/29	1/29	15	70	18
計	15日間	114	452	123
平均	25日間	56	123	69

信ちゃん子供村 開設関係者

信ちゃん子供村おわる  
両地区十二班(二二三〇人)入村

## プロフィール

上越市立公民館青少年係長  
船崎 同氏

ふなき、ひとし。新道、八年のベテラン係長である。昭和二十一年県立高田農学校を卒業。戦後の食糧生産の第一線で農産物検査官として活躍する。五年余、事務あつて退職。昭和二十七年新潟農務係に就職。町村合併により、昭和二十九年高田市へ。以来、衛生課、税務課、商工観光課を経て、昭和二十八年教育委員会出身。公民館主事としての活動が始まる。時あたかも、青年学校振興法にもとづき学校開設が盛んとなり、昭和三十三年青年学校主事に任命されるや、商業青年学校、家政青年学校、広域青年学校、高南青年学校と四学校の開校に成功、寝食を忘れた学級運営は、多岐の若青年のよき相談相手として、幾組かの仲間を引き受ける結果となった。昭和四十一年社会教育主事の資格を取得、一層みがかかった彼である。



また近年には、小学生を対象に、手づくり遊具の創作活動や、わんぱく広場を開設、高合者とのふれあいの場確保に積極的に取り組み、地域や、機関に新風をおくっている。高校生にも、社会教育の場が必要であるという信念から、高校二年生を対象に、高校生の広場を開設する為、ユニークな集いを開催し、青少年の健全育成に大きな功績を残し、昭和五十四年五月県立社会連絡協議会会長賞を受賞し、更に永年勤続職員として、同年十一月全国公民館連合会会長賞の栄えにもよみ、前後を期待されることである。この間、郷土芸能の普及と民謡団体の育成にも努め、上越地区民謡団体連絡協議会を組織、事務職員として目下活動中である。家庭では、三人の子供さんを大学に学ばせ、将来を夢みつつ毎月の仕事をこなす。……尿害の殺シエさん(タニコ小売業)と水入らずの毎日である。(上越市立公民館長 山本誠三郎)

# あの頃のこと

## 振り出しの回顧 (4)

猪股武雄

この信州大学で社会教育主事講習を受けた年の主事が、「青年早く村や郡内の青年団結成に結び学級は、戦後間もない頃、数名の青年が学校の宿屋の教師を訪ねて勉強したのが始まりだそうだが」と、講義で聞いた話を披露されました。振り出しに立ち帰る必要はありませんが、振り出しを願ふことは青年学級や青年講座を考へる上で必要なことなあとその時感しました。映画名は定かではありませんが、「誰がつけたか」その名を青年学級」という印象的な結びで終わる、当時青年学級のバイブルともいわれたフィルム等は、今学級や講座を学べる青年に見てもらいたいものの一つです。

今も述べたように、青年学級は戦後間もなく、東北地方を中心に澎湃として起こった、働く青年たちの「夜学会」といふ自主的な集まりの時代でした。

発祥の地での研究会  
昭和二十七年山形県上の山での東北地区青年学級研究協議会は、二二日からの分會会がいくつに分かれたかは失念しましたが、農山村の現場で実際の青年学級を見学して討議する方式をとりまし

た。私は蔵王町の学級を見た後、蔵王温泉で討議をしました。夜、大きな炬燵を囲み、湯気たる煙をあげてシキンスカン鍋をつつき、床に入っても個々に話し合ったのでしたが、翌朝目を覚ましたら外は一面雪をうつつし月をうつつし庭さきを過ぎる獣の影をうつつし住いの空間を自然にくぎるこんな優しい仕切りを誰がつくりだしたのだらう  
あるかなきかの薄明りを包んで方円の枠に静けさを湛えるこんな仕組みを  
どんな心が考えだしたのだらう

### 詩

#### 明り障子

浅間 勝衛

雪をうつつし  
月をうつつし  
庭さきを過ぎる獣の影をうつつし  
住いの空間を自然にくぎるこんな優しい仕切りを誰がつくりだしたのだらう  
あるかなきかの薄明りを包んで方円の枠に静けさを湛えるこんな仕組みを  
どんな心が考えだしたのだらう

面の雪、雪が来れなくなり歩いて下山した。翌年の秋田県機手での会は学校が会場でしたが、接待のPTAのおかあさん方が誰も彼も美人で、お茶をいただきながらの話しに花が咲いて、分科会に出るのを恐れた本県某青年学級主事さんがあったといふことでした。

研究学級の委嘱  
弥彦、巻、横越、亀田、黒川、中ノ島、十日町、大横その他すばらしい学級があり、国や県の研究指定学級にお願ひして推進力になってもらいました。その頃、秋田六分科会に分かれて地元学級生と県本庄市と田村郡の青年学級主意見交換しました。全体会では私書箱氏

事、学級生六十名が、県の機手も本県青年学級の素顔や望ましい社会教育主事一後、秋田県社活動について話しました。夜はみ会教育課長となり、小畑知事をたのや旅館に合宿しそれと夜の更すけて同県生涯教育推進の中心の役割を果たした人。数年前県社会教育協会で秋田県の生涯教育の話を交換していました。「青年学をきくための講師招へいでお級と共同学習」というスライドを世話になると共に、懐旧談に際し弥彦青年学級を素材にして作られたことがありました。一つにれたのもこの頃でした。

共同学習を含め、青年学級の組られて弥彦青年学級を訪れたこと、総学習論に花が咲いた時代、私の社会教育歴の中で一番充実も、学習内容と出席率、仲出づくし、なつかしい頃であります。

（元県社会教育主事 白根山立 函

雲をうつつし  
流れをうつつし  
しび泣く娘の影をうつつし  
この幽明の接点にしつらえられた神々の功芸品  
(本県安田町出身、元糸魚川市公民館長、埼玉県越谷市 弥十郎 4-10 在住)

### 総集版

企画では1年前に発行した「公民館のあるべき姿」と今日の指標(1)の復刻刊行の要請を乞うて新しく第二次の成案を台本し、「総集版」を発行した。

A5版・布クロイ仕  
三五〇ページ  
内容  
第一次成案  
第二次成案(新し台本)  
額価 二、五〇〇円(送料別)  
申し込み先  
新潟県公民館連合会  
TEL:025-241-6043  
241-6043

### あとがき

立春も過ぎて、どうやら梅も咲き出したかと思われるのころですが、御地ではいかがお暮らしていらっしゃるでしょうか。雪をわがものとして受け入れながら、それにより奮闘努力と工夫のなかにこそ雪国の生活があると思いますが、小雪の薄原地方ばかり見ていると、ちょっと拍子抜けのような気分を覚えます。二、三日休職をいたたいて東北地方の雪と顔でも見てごまかそうと思っています。(本)